

STEP1 用意するもの

★はじめに
本書は初めてWMS2を使うときに行う手順を示します。

まず最初に本書に従って接続、設定することでモニタリング、グラフ、レポート機能を試すことができます。設定は後で自由に変更できますので、本書に従って試した後、使いたい機能を“取扱説明書”を参照し調整されることをお奨めいたします。

STEP1 下記機材を準備してください。

番号	名称	外観	補足説明
①	ウエザートランスミッター WXT53x		1) WXT53x本体 (WXT520、WMT52、WXT536、WXT531、532、533、534、535、536アナログ入力付き) 2) 接続ケーブル (WXT53x購入時同梱、片方コネクタ、片方バラ線形状)
②	WXT53x用変換コネクタ		WXT53xとWMS2を接続する変換コネクタです。(RS-232C仕様専用、RS485,422では電源供給用として利用)
③	WMS2本体		小形気象観測Webサーバ装置です。LANケーブルを接続し外部より操作、閲覧できます。
④	ACアダプタ (WXT用)		仕様：DC24V/2A以上出力 内径Φ2.1mm ※外観が異なる場合があります。
⑤	ACアダプタ (WMS用)		仕様：DC5V/2A出力 EIAJプラグ形状 ※外観が異なる場合があります。
⑥	RS485変換アダプタ		USB-RS485(422)変換アダプタ(絶縁)です。 ※485用、422用は内部ジャンパボストで設定します。
⑦	PC (パソコン)		PCの仕様は LAN接続口×1、USB×1以上装備であること 使用OSはWindows®7、8.1、10 ブラウザはIE11以降または、GoogleChrome62以降が あらかじめインストールされていること。
⑧	WXT53x設定ツール		Vaisala WXT53X Configuration Tool Kit (ヴァイサラ社 有償ツール)
⑨	LANケーブル		カテゴリ-5以上 (WMS2とPCを接続するのに使用します)
⑩	マイナスドライバー		②WXT53xx変換コネクタに接続ケーブルをつなぐ時に使用します。

STEP2 機器の接続

裏面へ

STEP2 機器の接続をしてください。

機材を下記手順で、接続してください。
＜注意＞電源配線の極性を間違えないようにしてください、機器故障の原因になります。

手順1


ウエザートランスミッターWXT53xと、接続ケーブルをつなぎます

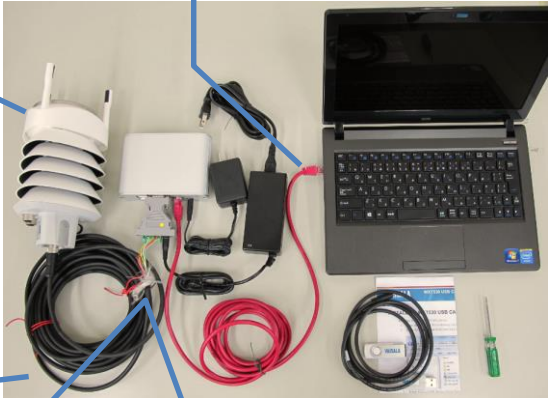
手順2

WMS2とPC間を、LANケーブルで直接接続します。

事前準備

変換アダプタ内部を下記のとおり設定します。






(写真はRS-232C仕様での接続例)

手順4

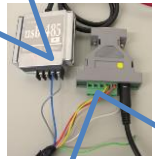
最後にACアダプタを、(2個ともに)コンセントに接続して電源を供給してください。



手順3

WXT53x接続ケーブルを右写真のとおりつなぎます。

RS485変換アダプタはUSBポートに接続し(上下どちらでも良いです)



信号名	RX-	RX+	TX-(RX-)	TX+(RX+)
電線色			青	グレー

信号名	TXD	RXD	GND	24V	0V
電線色			緑	茶、黄	赤、ピンク



STEP3 WXT53xの初期設定



- PCにWXT53x設定ツールをあらかじめインストールを行い、WXT53xとPCをUSBで接続します。(左写真のように接続してください。)
- 本設定をあらかじめ完了している場合、再設定する必要はありません。本設定は電源を切っても保存されています。
- 従来のユーザー様でWXT520用設定ツールをお使いのお客様は、Analog input messages項目を設定することができませんのでご注意ください。

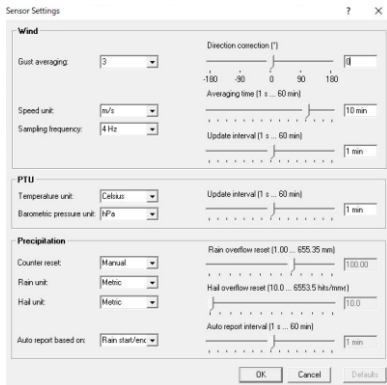


WXT53x設定ツール (Vaisala Configuration Tool)を、下記画面と同じになるように、設定してください。

Device Setting



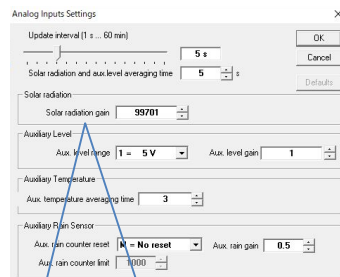
Sensor Setting



Message Setting



Analog Inputs Setting



日射センサを設定する場合
Solar radiation gain 係数を設定してください。
例：日射センサ係数 11.97uVの場合
1÷11.97uV = 83542.1881 → 83542を設定

STEP4 WMS2のモニタ機能を使ってみる

1. PCのIPアドレスの変更

PCのIPアドレスを変更してください。例としては「192.168.0.115」、サブネットマスクに「255.255.255.0」合わせてください。
WMS本体は工場出荷時「<http://192.168.0.210/wms>」に設定されています。設定するPCよりWMSにアクセスできるようにするためには、PCのアドレスが同一セグメント（ネットワークセグメント）のIPであることが必要です。

2. ブラウザによるアクセス開始



PCブラウザを立ち上げアドレス欄に「<http://192.168.0.210/wms>」と入力してください。この画面が表示されればアクセス成功です。

ユーザーIDに「admin1」パスワードに「admin1」を入力してログインしてください。

3. ログイン



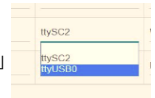
この画面が表示されれば、ログイン成功です。

4. センサ接続ポートの設定 (最初のみ)

画面右上の「設定」-「センサー設定」を選択しセンサの使用有無、ポート番号、初期化コードを選択してください。

1. 対象となるセンサを使用する (○) に設定してください。

2. 通信ポートを選択してください。RS-232Cは「ttySC2」を選んでください
USB接続した変換器は1台接続時は「[ttyUSB0]」「[ttyUSB1]」と表記されます



4. 最後に「実行」を押下し、設定を保存してください。

3. センサ初期化コードを選択してください。(出荷時のままで基本動作は可能です。)

※必ず再起動を行い、設定を反映させてください。

5. システム再起動 (再起動は数分かかります。)

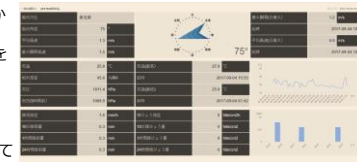
画面右上の「設定」-「システム設定」でシステム設定画面を表示し「システム再起動」を押下してください。

システム再起動を押下してください。

※再起動後、再度ログインし6. 項を参考にしてください。

6. リアルタイムモニタ画面の表示

右図の画面で太文字部分 (風向、風速、気温、湿度、気圧) のどれかが表示されれば、正常です。
数分待つて表示されないなら、WMS2本体の電源を一旦切って配線を再確認してください。
(電源切断手順は別紙「電源の投入と切断手順」を参照ください。)



<補足説明>

PCを切断 (ログオフ) しても、WMS2とWXT53xに電源が供給されていれば自動的にデータ蓄積動作を継続します。

データが蓄積されればメニュー上の機能 (ウィンドローズ、グラフ、レポート) が使えます。

★この状態でメール通報以外の基本的な機能が利用できます。

この後は、イントラネットへの接続変更、現場設置のため詳細部分調整を自由に変更できます。電源は切断されても設定は残っていますので詳細は「取扱説明書」をご参照ください。